

日本性科学会 ニュース

第26卷第1号

平成19年(2007年)3月

発行人:大川 玲子 印刷所:株式会社

第36回性治療研修会

日 時 2007年5月20日(日)
場 所 東京慈恵会医科大学西新橋校1号館5階講堂

プログラム

9:30～9:35	開会の挨拶	日本性科学会理事長	大川 玲子
9:35～10:20	セックスレスから16年	あべメンタルクリニック院長	阿部 輝夫
10:20～11:05	身体疾患を持つ患者のセクシュアリティ	東京大学大学院医学研究科老年社会科学講師	高橋 都
11:05～11:15	休憩		
11:15～12:00	挿入困難な膣への治療	千葉医療センター産婦人科医長	大川 玲子
12:00～13:40	昼休み(13:00～13:30)	日本性科学会総会)	
13:40～14:25	生殖医療の最前線	埼玉医科大学産婦人科教授	石原 理
14:25～15:10	生殖看護の実践と課題	聖路加看護大学教授	森 明子
15:10～15:20	休憩		
15:20～16:30	良いカウンセリング・悪いカウンセリング	埼玉医科大学かわごえクリニック神経精神科講師	塚田 攻
		日赤医療センター臨床心理士	金子 和子
		千葉県立衛生短期大学教授	大谷眞千子
16:30～16:35	閉会の挨拶	日本性科学会副理事長	阿部 輝夫

第27回日本性科学会/第9回性科学セミナーのご案内

第27回日本性科学会/第9回性科学セミナーを下記のとおり予定しております。皆様奮って御参加下さいますようご案内申し上げます。

会期 2007年11月10(土)13:00～17:00 第9回性科学セミナー
11月11(日)9:00～17:00 第27回日本性科学会 学術集会

会場 千葉市民会館(JR千葉駅から徒歩7分)
千葉市中央区要町1-1 Tel. 043-224-2431

学長 高波真佐治(東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科)

メインテーマ 「ヒトの性行動を考える」

基調講演 動物の性行動から人間の性行動を理解する(仮題)
東北大学大学院生命科学研究所教授 山元 大輔先生

教育講演 青少年の性行動全国調査(仮題)
東北学院大学教養学部社会統計学教授 片瀬 一男先生

特別講演 未定

会長講演 陰茎勃起のメカニズム

2007年6月末日

400字以内の要旨をe-mailにて下記宛にお送り下さい。

e-mailアドレス: masaharu@sakura.med.toho-u.ac.jp

〒285-0841 千葉県佐倉市下志津564-1

東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科

Tel: 043-462-8811 Fax: 043-462-8820

Vol. 26	日本性科学会 〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F 長谷クリニック内 TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789
No. 1	

日本におけるジェンダーとシェクシュアリティの現状と課題から — 医療の中のジェンダーについて —

主婦会館クリニック 堀口貞夫

従来、医療の場において、社会文化的に作られた性別（ジェンダー）の視点で議論されたことは殆どなかった様に思う。人という他の哺乳類と異なる身体的特徴を持つ動物として、一括りにして病を捉え、せいぜい疾病構造の身体的性別による性差を考えるに留まっていた。1980年代に入り性差医療（gender specific medicine）という概念が提唱された。日本では1992年に日本性差医学研究会が発足したが、基礎医学的に性差の問題を取り上げるに止まった。そのご、医療を「病を持った生活人に対処するもの」と捉えるとき、男性と女性の身体的異常であっても社会的な枠組みの影響を受けているものと考える様になった。こうした問題意識から医療においても単に gender specific にとどまらず、gender sensitive medicine であるべきだとされる様になった。

例えば、1960～70年頃には手術適応となる子宮筋腫と診断した場合、必ず後日夫と一緒に来院してもらい、そこで疾患の説明や治療法についての説明を行なうのを当然の事としていた。産科領域では、出産の安全性を求めて施設分娩を推進することで、1950年には5.6%だった施設分娩が、1960年には50.1%，1965年には75%を超えた。1970年には96.1%となった。妊産婦死亡率は1/3、周産期死亡率は1/2に減少した。しかし妊婦は家族と切り離され、孤独と不安の中で出産する事となった。夫が分娩室に迎えられたのは、1980年代に入ってからであった。患者の声に押されて女性外来を開設している施設は89.2%に達しており、日本産婦人科医会会員の中の女性医師も2006年の調査では19.7%となっているが、同会役員59名中女性は3名（5.1%）である。

一方、一般の中高年世代のジェンダー意識についてはどうだろうか。をセクシュアリティ研究会*が2000年と2002年に「我が國の中高年者の性意識と性行動の現状」を知る事を目的として、40才から79才までの方達を対象として行ったアンケート調査の結果**の中から見てみる。

2000年の調査時点で69才の人は、1921年に生まれ、戦争中に思春期を過ごし、35才の時に売春防止法が公布された。40才の人は、その4年後の1960年に生まれ、国連で女性差別撤廃条約が成立した1979年前後が思春期であった。男女雇用機会均等法が公布された1984年には夫々63才と24才で、此の年に行なわれた東京都性教育研究会調査「児童生徒の性」の高校三年生の性の開放度の指標とした、婚前交渉に対する意識は、「いけないこと」とする者は、男生徒の12.9%，女生徒の32.5%であった。リプロダクティブ・ヘルス／ライツが謳われた1995年の第四回世界女性会議（北京）には、それぞれ74才と35才である。そして2004年の東京都性教育研究会調査の高校三年生の「婚前交渉はいけないこと」とする者は、男生徒の9.9%，女生徒の5.0%と著明に減少し、男女の逆転が見られる。

「性について口にしてはいけない」「性の目的は子どもを産む事である」と思っている人は有配偶、単身ともに10%前後とそれほど多くないが、「口にしてはいけない」は女性では60才代から20%を超え、70才代では35%を超える。男性は年代による変化は少ないが、有配偶の70才代だけは30%になる。

「性の目的は子産み」とする人は、有配偶の70才代で男女とも20%を超える他は、男女、年齢、結婚の有無による差は認められない。

「性は楽しいもの」を否定する人は、女性では40才代の有配偶では27%，単身では25%で、その後加齢とともに増加し70才代には43%をこえる。男性では有配偶、単身ともに20%以下で年代による差はない。

「性は男性がリードするもの」と考えている人は比較的多く、男女差は無くほぼ同率で25%から、年代とともに増え70才代では有配偶は70%前後単身は50%前後となること、全年代を通じて単身者の方が低率（10ポイント低い）である。

「夫（男性）の性的な求めに応じるのが妻（女性）の心得」とする人は、30%以上と多く男女差も少ない。しかも年代が高くなるに従って増え、50%を超えるが、単身の女性では「そうではない」とする者が多く、特に40才代50才代では八割を超える。有配偶の40才代も86%は「応じなければならない」とは思っていない。

これと関連して、有配偶者について「気乗りしない性交に応じる事が、よくある」と「時々ある」を併せると女性では、40才代では38%で以後、年代とともに増加し70才代では57%になる。男性では「よくある」は殆ど無く、「ときどきある」も11%以下であるが、70才代では23%と増加している。

「女性が求めるのは恥ずかしいこと」と思う女性は20%前後で年齢が高い方が多いが、男性は各年代とも5%以下で「もっと自由になって良いよ」と言っている様に見えるが、どうだろうか。

今回の調査で明らかになったのは、結婚と言ふ法律的に保護された男と女の関係においては、「十分な肉体的満足」「精神的満足」を「いつも得られる」のは、有配偶の女性では12%程度であるが、有配偶男性と単身者では男女とも25～34%と二倍である。単身者という緊張関係にある場合、日常生活の中での身体的触れ合いや性的欲求や感情を伝えあう努力を、単身男女の八割はしているのに、有配偶の男女では20～40%と少なく、我が國の中高年世代の問題点を示している。

* セクシャリティ研究会：日本性科学会会員の荒木乳根子、石田雅己、大川一郎、大川玲子、金子和子、早乙女智子、渡辺景子、堀口雅子、堀口貞夫

** 第26回日本性科学会のシンポジウム“日本におけるジェンダーとシェクシュアリティの現状と課題”で発表した。

第 26 回日本性科学会を終えて

村口きよ女性クリニック院長 村 口 喜 代

第26回日本性科学会／第8回性科学セミナーを昨年11月18, 19日仙台において開催した。学会のメインテーマは「ジェンダーとセクシュアリティ」(性科学セミナー「『性の健康』達成のために」)であった。「ジェンダー」は私にとって拘り続けてきた問題意識であり、本学会において是非「ジェンダー」を真正面にすえて議論してほしいと考え続けてきたからでもあった。「ジェンダー」へのバックラッシュが先鋭化する最近の状況の中で、どのように展開すべきか試行錯誤した。学会企画の基本原則として、①講演者・座長等オーガナイザーの男女比率は1:1とする、②ジェンダー概念、歴史的背景と現状認識をしっかり押さえる、③ジェンダー問題を多方面からかつ社会科学として明らかにする、④シンポジストは身近な仙台の方にも、⑤性科学をめぐる最新の情報を提供する、⑥学会の成果を広く市民に還元するための市民公開講座を行う、⑦ランチョンセミナー、等を考えた。

学会参加者は199名であり、うち非会員の参加が多く61.3%を占めた。仙台周辺の参加者はほぼ4割であり、札幌、九州、沖縄等全国各地からの参加いただいた。所属別では医師44.2%，保健師，助産・看護師，大学教員，大学院生，中・高・専門学校教員等のコメディカル・教育・研究者の参加が33.5%を占め、本学会の広がりを感じた。

今学会の最大のイベントは、市民公開講座として一般公開した特別講演の若桑みどり氏の「西洋美術史に見るジェンダーとセクシュアリティ」であった。一般市民の参加がほぼ300名となり、たくさんの聴衆が若桑氏の話に引き込まれ・魅了されたあっという間の1時間半が過ぎた。「ジェンダー理論は、20世紀に現れた人類の最新の解放思想であり、女性に、男性と等しい自由、権利を、そして平等を与える理論的根拠を初めて提供した」との立場から若桑氏は、母権制から父権制社会へと、その美術・女性像を辿り、21世紀では「美術史の女性像」は人類史上最大の変化をとげ、第3のステージへと進むであろうと結んだ。

24

2004年12月14日

Medical Tribune

（第1回読書会目次）

会員調査 性の健康に不可欠な「ジェンダーの視点」

仙台市で会員から集めた26回目日本女性学会において、会員を務める団員と女性クリニックの社員で構成団員は、36年間近くお世話頂いた団員としての回顧と経験と感想を語られたが、会員は女性として、性の健康を維持するにはジェンダーの視点が不可欠だと強調した。

育ててお母さんになり出産

村口院長は1970年に経産しての初回経産は自ら産科医の経産病院で始めた。「一説中田院長に当たって、回顧した恩師がわざ、「産婦さん、ありがとうございました」とお言葉を。まだ新だったことであって、育ててお母さんではなく「育ててお母さん」とは言わなかった」と語った。

経産回数で2回を出産。やがて医師に戻ると、社会を生き生きにしながら女性の「先輩たち」。その後に入りをしたといふ死んだところには、医師には「ランク(彼の死の出産)」の経験があった。育児に追われていたことから私もがんばらなければならぬのかしら?とつぶやき、医師を入院せず言わむか。「ランク(経産のデューティー)で、できむなら医師院にいるべきではない」。育ててお母さんは2回生むるを躊躇なされさせた。

1980年、市立病院に赴任。受け入れ回数が「おまかせの医者」にひどく困惑したが、教育の恩師もあきらめ。手術経験の実戦は男性ののみ。看護師団体をよそうやつつけられもった。

回数長は、このように自分なりに努力をしたし、経産婦とは何から、あらためて考える。「性のむととしての女性がかわり、性と生殖にかかわり、そして女性の一生にかかわる」。

1981年に仙台で女性学会に「開かれた会」で女性社会に会員。セクシュアリティへの心配を始めた。経産の折のダメダメがもたらす。「セクスアリティを口にするのがカレンダーに印を押すのが、その度が近づくとよつ」。コトコト女性の経産の思ひで、セクスアリティもある「生」人はもう、あんなにには言えてもらえないなどと嘆かれた。更年期障害の患者へ夜に仰向ううつを抱いてきたから向阳区院を立ちたいからと女性を抱えていた。

コンドーム使用率に大きな差

1999年に村口院長は仙台市内で開業したが、若く女性の多い近畿圏、中部、近畿、性感染(STI)の発生が目に付き、コンドームの使用回数を行った。

対象はクリニックで絶対希望で来院しておらず若い女性とパートナー。この両者と対象としたことが大きめ特徴だ。コンドームの効果といった知識に聞いては女性はなぜかた。

しかし、コンドームの使用回数と使用決定者との回顧回数を見ると、

大きな差異が明らかにならなかった。まず使用回数にては、便用コンドームで使用率は100%で「性用コンドーム」ではそれから40%で「半中性用コンドーム」、40%以下で「性用コンドーム」とした。

この結果に対する女性層に聞くと、常用1回とおもな個人用ととしての使用回数は、中間層が4割程度、低回数が3割程度だった。

ただ、さればコンドームの使用を決めるにについて、女性は聞くと「[性]用」で、「[性]用の2割、「人で会合して」で4割弱を経た。ところが同じ質問を男性にすると、「[性]女が決める」と「[性]用を減少し、「[性]が決める」という結果だった。

さらに、使用回数と使用決定を比較した。その結果、回答者の女性の場合(図1)、「コンドーム使用を女性が決している」とは「[性]用」で12.5%とです。 「[性]用」で4.8%と性の無い方に「[性]用」はええと、女性はコンドームを決しないように決していることになる。

一方、回答者が男性の場合(図2)、「コンドーム使用は女性が決めている」とは「[性]用」で6.6%、「[性]用」で7.2%と、さらには大きな差が

付いた。すなはち「女性は「性」はなしコンドームを使いたがる「性」とは言わない」となど、より独立していっている。

なぜか女性間にうとうとしている性は、経産後は女性に、男の性の依存心、こだわり、恋愛心が受け取られるから、経産後は性愛心が受け取られる。つまりはジェンダーの問題だ。

それがその社会的な立場も異なる。性の専門クリニックを含めて115~24歳の患者で「社会人」と「大人」の半分は性社員であったが、残りは

経済的に不安定だった。日本全体の雇用統計を見ても、1990年代から若者の正規雇用が確実に崩壊。この現象で女性の場合は就けない職だが、女性はまだ大半だ」と語っている。

1979年以前では女児に過度の運動的効果が実験されてしまい、日本でも以前に男女の性差が過度化されたが、現在の日本は80年代以降に回復していっているのではないか。と同時に性は懸念する。明らかのように、「性」の機能をもたらす明確なように、「性」の機能を過度にしていくには、男女両者など性別を持つことが欠かせないと仮説した。

(図1)コンドーム使用決定者と使用回数

		回数回数	中性層(女性)	性層(女性)
1回未満	女性	12.5	45.8	18.4
性層	男性	18.4	45.8	18.4
2人で決めて	女性	22.0	32.5	22.5
どちらとも言えない	女性	16.2	29.5	29.5

		回数回数	中性層(女性)	性層(女性)
パートナー(女性)	女性	8.0	7.2	7.2
性層	男性	21.0	22.7	22.7
2人で決めて	女性	20.3	15.9	15.9
どちらとも言えない	女性	6.0	6.0	6.0

セックスカウンセリング3群年

主訴は勃起障害から性欲障害へ

日本千手子連鎖セクターがカウンセリングサービスとして性医学部門を設立したのが1977年。セクスカウンセリングを開いた日本での「キヤウ」は女性66%、女性13%。その後女性に女性が増加し2005年では男性34%、女性66%と、男女比は完全に逆転した。

主訴にして、男性の場合は勃起障害が90%を超過して第1位を占め続けていたが、1999年には50%を割るようになった(図3)。これに対し、かくての年齢の大半は勃起障害であったが、最近には性欲障害の訴えが目立つなど、日本人の性状が変化が実証化していることを示した。

2年前から相談者が被認識

金子氏は、同センターの性相談部に1977年1月~2003年1月まで相談員に勤めた232人(男性120人、女性142人)を対象に、主訴の性状について調査した。相談者は2004年、2005年で性状に変化があると見て、主訴の性状を見ると、何時もかはるに何時もかはるに性欲減退を見ると、何時もかはるに少しがながるためだ。その後、その内少額にあらざるだけなく、その内

うか。金子氏は「男性の主訴が変わったことで、相談にいかないでむ。あるいは問題の先延ばしにつながっている」と指摘する。つまり勃起障害であるならば、気道阻まない間に妻に訴えられるとセックスカウンセリングを引き受けることにならない。しかし性交はできるが、性状がしないといふ場合は、「もう少し性交をしてもらいたい」と、その時ではカウンセリングを回避されるのである。

主婦が抱いている性状は、見合いで結婚する際の恋愛状況への変化があるようだ。かつては、結婚して性行為が初めてというイメージではなかった。その女性はまだから離婚の危険を失敗し、その失敗が次の失敗を招くといふパターンが、古くから「新婚インペラム」がスズ。

近年において、結婚して性行為は初めてというケースはまれで、「最近結婚して性欲勃起障害の原因はもっと別の要因であります。お年寄りでいきなりの性交となるのが現状だ。だらだらの性交の向こうで、『お年寄りに対するお泊りが目次』と指摘。その性交の向こうの相談者で、「セックスするなんて、団圓だから」、「なぜわざわざセックスをしなければならないの」と答えるケースが増加しているといふ。田口氏は「性に対する懸念が気付かれてきている」と述べ、報告を終えた。

(図2)性の主訴の変遷

年	性欲	勃起障害	性交困難	性交過多
1977	70	10	10	10
1981	60	10	10	10
1985	70	10	10	10
1989	60	10	10	10
1993	50	10	10	10
1997	40	10	10	10
2001	30	10	10	10
2003	20	100	10	10

(Medical Tribune, vol.39 no.50, 24 頁)

引き続いて、ランチョンセミナーは北村邦夫氏の「過去・現在・未来から読み解くジェンダーとピル」、大川玲子理事長の教育講演：性の健康学会 モントリオール宣言「ミレニアムにおける性の健康」、会長講演「性の健康とジェンダー」へと進んだ。芦野由利子氏による基調講演「ジェンダーの基本的概念および歴史的背景と現状」は30分という短時間にもかかわらず、ジェンダーの定義、歴史、核心部分を網羅していた。シンポジウムは各演者の其々の立場からの貴重な話を受けて、会場からの発言があり、十分なディスカッションとはいえなかったが、従来からの性役割が崩れつつある状況、2分法で語れない多様化に対する認識が進みつつあること等、ジェンダーをめぐる多岐にわたる議論がなされた。最後に座長から「ジェンダーを考えるときの重要なキーワードは、お互いの間のコミュニケーション力を高めることと、多様性に対してセンシティブであること2つでしょう」「マイノリティという言葉を使うとき、どういう立場・意識で使われたが重要なことである」がまとめの言葉とされ、それぞれが今後の方向性・課題を確認でき、実り多い会となった。

その後、盛会だったとのねぎらいの言葉をたくさんの方からいただき、何とか責任を果たすことができ安堵したが、とても嬉しかったことは12月14日号のメディカル・トリビューンに学会の紹介記事が出たことだった。

[DVD の紹介]

The O Tapes (Roseworks Hollywood, CA 90038)
— American Women on Sexuality, Orgasm, Female Ejaculation and much more. —

国立病院機構千葉医療センター医長 大川玲子

2005年モントリオールの世界性科学会会場は、性の多様性のキーワードに満ちていました。性機能障害関係では、ED治療薬が席巻していた数年前と異なり、女性性機能障害(FSD)のセッションが、どこも満席状態でした。そのなかで、The O Taoesの映画会は連日開催しており、「何だろうこれは?」「ボルノかしら?」とひやかし半分に見に行きました。観てびっくり、ユーモアたっぷり、共感をよぶ鋭い視点で女性の性反応、性機能障害を解説、性の喜びに案内するいわば教育テープです。スタートはCG版アダムとイブ。イブの差し出すりんごを、アダムはおいしそうに、分けて欲しそうなイブには目もくれず1人で食べてしまいます。がっかりし怒ったイブが背を向けて去ると、アダムは「何を怒っている?女の考えていることはさっぱりわからない。」という表情。その後、様々な年代、職業、人種の女性がインタビューに答えるかたちで、自分のセックスやセックス感を率直に語ります。特に印象深い話にはアニメの挿話などが入り、会場は笑いの渦になりました。目次は、Hysteria, Learning, Masturbation, Good Girls vs. Bad Girls, The first time FSD, Penis size, In the bed room, The G-spotなどなど26項目。歴史的話題や性科学者の解説も入ります。WASでお馴染みのBeverly WhippleやWomen's onlyのBermanも登場します。難点はやはり英語ですから、特に一般の人の話が早口で、私はついていけないところが多いのですが、文字情報も多いのでよそのことは分かります。できれば英語の堪能な方を含めて、グループでぎやかに見ることをお勧めします。購入を含めた解説はホームページ。

www.thetapes.com

セックス・カウンセラー セックス・セラピスト 資格認定委員会報告

認定委員会委員長 阿部輝夫

日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定更新規定（日本性科学会雑誌に掲載）に基づき、平成19年度資格更新が行われます。「資格更新」に関する告示を、6月発行の日本性科学会ニュースで行います。尚、更新該当者氏名（登録順）は、以下のとおりです。資格認定更新規定を熟読の上、更新希望者は、ご準備をお願い致します。また、同時に、平成19年度新規資格認定に関する公示も、6月発行のニュースで行います。

資格更新該当者氏名

セックス・セラピスト 茅島江子・森村美奈・大谷真千子・高橋都

日本性科学会ニュース原稿募集のお知らせ

日本性科学会ニュースは、会員の皆様への一方通行の情報発信だけでなく、会員の皆様からの情報発信の場でもあります。ニュースに掲載したい原稿（性科学に関する学会報告、症例報告、文献や書籍の紹介・感想）などございましたら、ぜひ学会事務局まで投稿してください。厳密な投稿規定はありませんが、投稿後に修正等をお願いすることもありますのでご了承のうえ、投稿をしてください。

会費納入のお願い

4月より新しい年度（平成19年4月1日より平成20年3月31日）になりますので、平成19年度会費15,000円の納入を、よろしくお願い致します。手数料が無料となります、学会の郵便振替用紙を同封致しますので、ご利用下さい。